

【新刊刊行のお知らせ】

神田外語大学 遠藤美幸講師等 共著

『戦争のかけらを集めて—遠ざかる兵士たちと私たちの歴史実践』

神田外語大学(千葉市美浜区/学長:宮内孝久)の遠藤美幸講師等による共著『戦争のかけらを集めて—遠ざかる兵士たちと私たちの歴史実践』が、2024年6月12日(水)に刊行されました。遠藤美幸講師は、イギリス近代史・ビルマ戦史を専門としており、不戦兵士を語り継ぐ会の共同代表などを務めています。本著は、元兵士から非体験者への世代交代が進む戦友会や、戦争を伝える史資料・メディアに向き合ってきた11人が、研究という回路を通して、忘却に抗する可能性を示しています。

書籍紹介

やがてくる第二次世界大戦の体験者不在の時代に、私たちは、どうすれば過去とつながることができるのか—世代交代が進む戦友会や史資料・メディアを通して、戦争に向き合う11人の研究者たちが、「断絶」に抗する術を探る。

偶然出会った個人の生と死、戦後の片隅にいた集団の断片的な物語などを拾い集め、埋もれた歴史経験のリアリティを描きだす。これからの継承のかたちを構想し、過去の戦争が「歴史」になる時代に何ができるのかを考える。新しい研究者たちによる挑戦の一冊！

書名：『戦争のかけらを集めて—遠ざかる兵士たちと私たちの歴史実践』

著者：遠藤美幸講師 他

発行：図書出版みぎわ

体裁：A5判・並製・カバー装・320頁

価格：本体3520円(税込)

発売：全国書店

発売日：2024年6月12日(水)

ISBN：978-4-911029-09-1 C0020



目次

- ◆プロローグ あの戦争は「歴史」になったとしても 清水亮
- ◆第1部 非体験者による存続の行方
 - ・戦後七〇年の軍艦金剛会 「追憶」のためのノート 塚原真梨佳
 - ・不戦兵士の会 元兵士と市民による不戦運動の軌跡と次世代への継承 遠藤美幸
 - ・なぜ統合は困難なのか 戦友会の固有性と組織間のつながり 角田燎
 - ・[補章1] 戦友会研究への招待 非体験者が参加する戦友会という謎 角田燎
- ◆第2部 元兵士をめぐるまなざしの交錯
 - ・なぜ憲兵の体験や記憶は忘却されたか 未発に終わった全国憲友会連合会の「引き継ぎ」から 後藤杏
 - ・攻囲される日本郷友連盟 公文書から国家の認識に迫る 白岩伸也

- ・ 未来出征軍人会 第二次世界大戦前夜におけるアメリカ在郷軍人会と大学生 望戸愛果
- ・ 自衛隊体験の使い道 自衛隊退職者が書いた書籍の分析から 津田壮章
- ・ [補章2] 兵士の史料への招待 捨てる／拾うの位相から 白岩伸也
- ◆第3部 残された言葉との対話
- ・ 書かれたものとおして戦争体験者とつながるには 堀川優奈
- ・ 陸軍士官学校からエリートビジネスマンへ ある六十期生の「陸士経験」と戦後 塚田修一
- ・ 歴史への謙虚さ 非体験者による歴史実践の可能性 清水亮
- ・ 「わだつみ」という〈環礁〉への航路 ミュージアム来館者調査から 那波泰輔
- ◆エピローグ 環礁の肩拾い 「未定の遺産」化の可能性 清水亮・白岩伸也
- ◆あとがき
- ◆執筆者プロフィール／エッセイ

著者紹介

遠藤美幸(えんどう・みゆき)

1963年生まれ。イギリス近代史、ビルマ戦史研究者。神田外語大学・埼玉大学兼任講師(歴史学)。不戦兵士を語り継ぐ会(旧・不戦兵士・市民の会)共同代表、日吉台地下壕保存の会運営委員、日本ミャンマー友好協会理事。2002年から元兵士の戦場体験を聴き続けている。著書に『戦場体験』を受け継ぐということ―ビルマルートの拉孟全滅戦の生存者を尋ね歩いて』(高文研)、『なぜ戦争体験を継承するのか ― ポスト体験時代の歴史実践』(共著、みずき書林)、『悼むひと』(生きのびるブックス、2023年)などがある。



参 考

【神田外語大学 HP】

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>

【図書出版みぎわ 本書紹介】

<https://migiwamaru.stores.jp/items/66333b5ac7a8720313822a31>

※本学から配信されるプレスリリースはSDGsに基づいた教育環境充実の一環として、UD(ユニバーサルデザイン)フォントで作成されています。<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/52433/>

本件に関する報道関係の方の問い合わせ先

学校法人佐野学園(神田外語グループ) グループコミュニケーション部 担当：三上山 雄亮
TEL:03-3258-5837(平日 9:30~17:00) FAX:03-5298-4123 E-mail: media@kandagaigo.ac.jp

※神田外語グループ公式 Twitter(X) アカウントはこちら：@kandag_official

